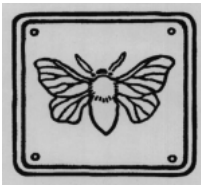


## その後の小林升 -荻野村村長として-

養蚕教師として活躍してきた升ですが、下荻野に繭乾燥組合を設立します。生繭ではなく、乾燥済の繭を扱うことの有利さを実感していたと思われる升がその中心となりました。その一方、荻野村の助役も勤めていましたが、明治43年には第9代目の荻野村々長に就任しました。この時は一年間のみでしたが、大正11年～昭和5年まで約10年間、12～14代村長を務めます。この間、関東大震災、農村不況など様々なことがあったはずですが、升は乗り切っています。



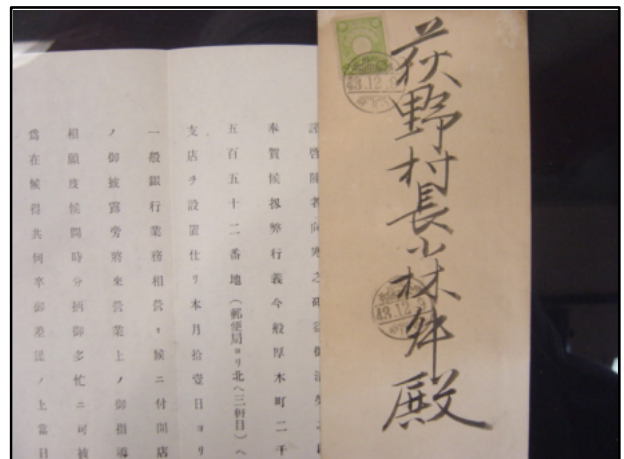
小林升は、蚕種検査員として勤めるかたわら、明治41年に下荻野繭乾燥組合を創立しています。升は、その会計書類の綴りを遺しており、創業費378円24銭6厘の内訳の他、領収書から、組合の活動から、共同繭乾燥所設置補助規則の補助を村から受けたことまで、その足跡がおおよそつかめます。

大正11年、厚木町には繭取引所とともに、乾燥場と倉庫がおかれ、生繭の乾燥と保管が行なわれるまで、厚木で生産される繭の多くは生繭のまま業者と取引されました。繭の取引は見本取引で、製糸業者が直接養蚕家の家に来るか養蚕組合が一定場所に集めて行なっていました。乾燥場のおかげで、対物本位の市場取引ができるようになりました。荻野では、繭乾燥組合の設立により、10年以上前からこの方法で取引することが出来たのです。展示資料の『新編養蚕教科書』（明治40年、飯田 孝氏蔵）の最終頁に「愛甲郡立第四実業補修学校生徒第一年生」と墨書されています。後の郡立実業学校で、当時は下川入にありました。升は、明治44年、同校校長・北見宗吉から教師として同校に招かれています。

### 第九代 荻野村村長として

明治40年10月20～26日にかけて、小林升は、静岡県へ視察に出かけました。「静岡県地方自治施設ノ状況視察復命書」を当時の荻野村長・森甚太郎宛に提出しています。この視察で、駿東郡小泉村佐野農業補習学校、庵原村杉山報徳社兵名蚕業学校の他、三重県阿山郡鞆内村など当時の養蚕先進地帯の視察もあわせて行ない、「三重県阿山郡鞆内村村是(そんぜ)」等を資料として添付しました。

その後、荻野村助役を経て、升は明治43年に第9代荻野村々長に就任、この時は一年間のみでしたが、大正11年から昭和5



年までの3期、12～14代村長の村長を務めました。この間には、関東大震災、農村不況など様々なことがあったはずですが、升は無事に乗り切っています。愛甲郡農会議員、郡教育会評議員なども務めるとともに、村の補助を得ながら共同繭乾燥所を設置するなど、升は荻野村の主立として活躍しました。

升は養蚕教師として各地を巡り、仕入れた知識、また経験を活かしたのでしょうか。升は当時の、いい意味での新しいタイプの“世間師”といえましょう。

小林升が遺した書簡は約840通、書状は600枚。まだ、すべてを読み込むには至っていません。その作業が終了すれば、升の足取りはより明らかになり、養蚕教師・小林升の果たした役割はもちろん、荻野村々長としての実像も見えてくるのだと考えられます。